

ワークショップ1

「大腸腫瘍に対する内視鏡治療の進歩と課題」

司会 斎藤 豊（国立がん研究センター中央病院内視鏡科）
福永 周生（大阪公立大学大学院医学研究科消化器内科学）

大腸腫瘍に対する内視鏡的切除術は、Cold snare polypectomy (CSP)、underwater EMR (UEMR)、ESD、Per-anal endoscopic myectomy (PAEM)など多様な手技の進歩により発展してきている。さらに、組織欠損閉鎖や縫合などの周辺技術の開発は、安全性向上と適応拡大に寄与しつつある。一方で、各手技の適切な選択と工夫、偶発症対策に加え、教育体制の整備や切除後の長期成績の検証など、なお多くの課題が残されている。本セッションでは基礎研究の成果も含め、幅広い視点から議論を深め、今後の内視鏡治療の発展に資する演題を期待する。